

＜テーマの設定理由＞

子どもたちが砂や水の感触を楽しんだり、水と砂が混ざって感触が変化していく様子、形が変化する面白さ等を感じたり、たくさんの発見できるように、このテーマにした。全身を使って、思いきり遊べるよう環境を整え、大人や友達との関わりがどう広がっていくかも大切に見ていく。

園名：社会福祉法人たつの子の会
羽村しらうめ保育園
活動日時：令和8年1月7日 晴
午前中

クラス名：ひよこ組（0歳児クラス）
りす組（1歳児クラス）

＜活動スケジュール＞

1年を通して砂水遊びを継続的に取り組んでいる。
この日は園庭に出て午前中の時間、遊びを展開しながら砂遊びを行った。

＜活動のために準備した素材や道具＞

砂・タライ・ゴムタイヤ（車用） 等

＜環境をデザインする・探求活動の実践＞

午前中に園庭遊びを行った。ここ数日は散歩に出かけることが多く、園庭で遊ぶ機会が少なかった為か、嬉しそうに出る姿が見られた。

園庭では、大人が設定した砂山で上り下りをしたり、落ちていた木の実や園庭に咲く花を見つけたりする等、それぞれが興味を持った遊びに向かっていた。遊びの中で写真のように自分の手足を砂に埋めて遊ぶ姿が見られた。足が砂に隠れると、砂の中で指先を動かし、砂が動く様子をじっと見つめていた。また、砂から足を出し、砂が付いた足と元の足の色の違いを見比べる姿もあった。砂の盛り方を山状にしたり、手で平にしてみたりと、砂の形を変えながら試す姿が見られた。友だちの遊びを見て同じように手を埋めてみる子もおり、言葉でのやり取りはないが、互いの姿から刺激を受けながら遊びが広がっていった。大きな反応はなくとも、遊びに満足している姿が見られた。

大人が園庭にある車用のゴムタイヤの中に氷ができていた事に気付き、子どもたちに見せると、興味を持って近づく姿が見られた。砂が混じった氷を不思議そうに見つめたり、手で触れてざらざらとした感触を確かめたりしていた。水道へ行き、蛇口をひねって水で洗ってみる姿も見られた。冷たさを感じると手を離し、次の子が触れるなど、自然と順番が入れ替わりながら遊びが続いていた。タライの中の氷に指先でそっと触れてみる姿も見られ、周囲の環境や他児の存在を感じながら遊ぶ様子があった。



○振り返り

- ・砂遊びでは、これまで手足が砂に埋まる経験はあったが、自分から埋めてみようとする姿は見られなかった。今回は、自ら手や足を使って砂をかけた形を変えたりする姿があり、左右の手足を協調させて動かすなど、体の使い方の成長が感じられた。また「こうしたらどうなるか」と試しながら遊ぶ姿が見られ、小さな年齢でも探究的に遊んでいると感じた。
- ・砂に触れる中で、指先を動かして砂の動きを見つめたり、砂から出した足の色の変化を観察したりと、感触だけでなく視覚で変化にも気付いている姿があった。一人ひとりが自分のペースで遊びながらも、友だちの遊びを見て同じように試してみるなど、言葉にしなくても周囲から影響を受けながら遊びを深めている姿が見られた。
- ・氷遊びでは、冷たさや硬さを感じるだけではなく、砂の混じった氷を手で洗うことで変化が起きるかを試す姿が見られた。水をかける、触る、手を離すといった行動を繰り返しながら素材の性質や変化に気付き、自分なりに確かめようとする姿があった。
- ・今回の活動を通して、大人が設定した環境に対し、子どもたちがどのような事に関心を持ち、どのように遊びを広げていくのかを丁寧に捉えることの大切さを改めて感じた。今後も、子どもの姿から環境や素材の出し方を考えながら日々の保育を行っていききたい。